

幌別中学校の 卒業生が力を 合わせて

『南こうせつを聴く会実行委員会』の設立のきっかけは、東京を中心に活動している劇団阿修羅の演出家が幌別中学校の14期生だったことから、同期生たちがふるさと公演を企画。平成8年に、同劇団の『十二人の怒れる男達』の登別公演を実現させ、成功に導いたことが始まりです。

それから6年。「もう一度自分たちの手で、21世紀の起爆剤となるようなステージを実現させよう」と同級生たちと相談。同じ時代に生き、そして思い出の数多くの名曲を歌う南こうせつさんのコンサートを開こうと意見が一致しました。

須賀川さんら同級生の願いは、文化・スポーツ振興財団の平成13年度音楽鑑賞事業のプログラムとして実現。それを受け、コンサートの成功に向けた須賀川さんたちの活動が本格化しました。

パワーが衰えてきても パワーの出し方を工夫 すれば何かできる

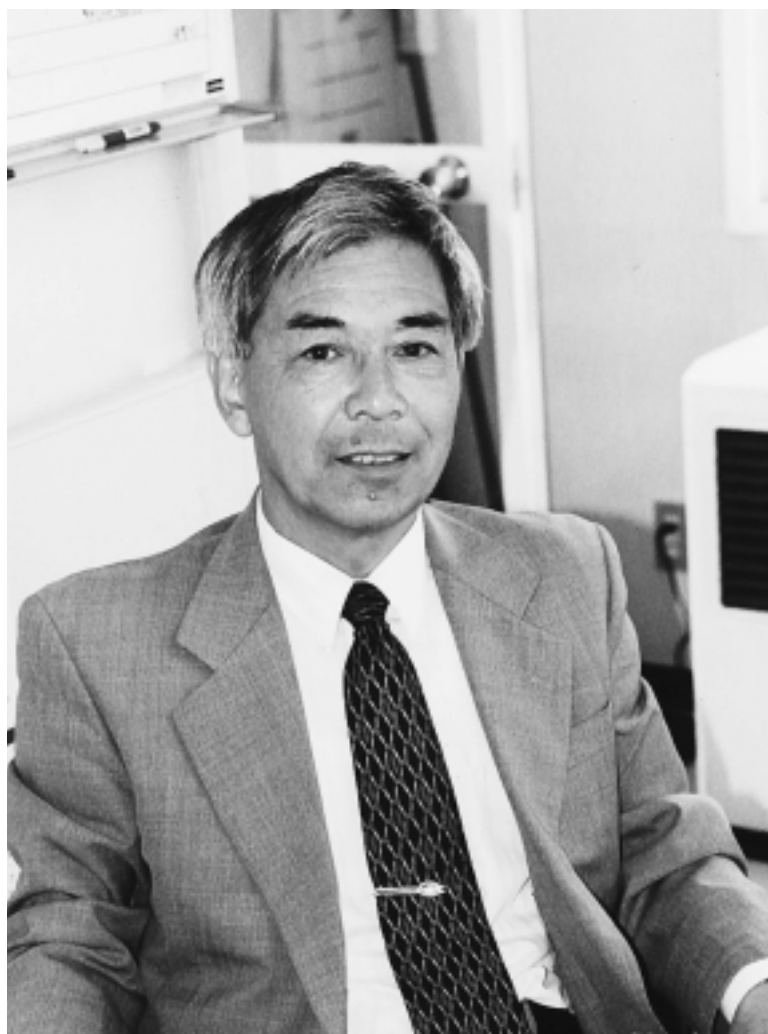
「今回は、14期生だけでなく先輩・後輩が幅広く協力し合った組織にしようと、13期生から17期生のみなさんにも呼びかけました」と須賀川さん。



▲6月8日(金)に開かれた『南こうせつを聴く会実行委員会』総会。現在のメンバーは78人。

「たくさんの方が参加してくれました。人数はまだまだ増えそうです。メンバーはみな50代半ば。自分がやり残したことはないか、中学生時代の友はどうしているのか、そんなことを考えながらも、心の中では年齢からくるあきらめのような気持ちも。でも、パワーが衰えてきても、パワーの出し方を工夫すれば、まだまだやれると思います。登別に住む若い方にも何かを残したい。そんな思いで、自分たちのため、そして地域のために、何かをやらねばという気持ちです。今回のコンサートだけでなく、将来に向けた活動も視野に入れていきます」と須賀川さんは高まる胸の内を明かしてくれました。

実行委員会のメンバーは、それぞれの思いを胸に、コンサートの成功に向け動き始めています。



KIRARI

す が わ のぶ ゆき
須賀川信之さん(栄町)

9月に開催される『南こうせつ CONCERT TOUR 2001～さあ歌おう～』。このコンサートは幌別中学校の13～17期生が中心になって設立した『南こうせつを聴く会実行委員会』が企画から運営に至るまで関わっています。

同実行委員会の委員長・須賀川信之さんに実行委員会の設立の経緯やコンサートへの思いなどを聞きました。

地域に、21世紀の新しい文化活動を育てたい

昭和20年、登別市生まれ。55歳
昭和39年(株)日本製鋼所室蘭製作所入社。平成6年アーム興産(株)室蘭営業所へ出向、現在同営業所長。「実行委員会の立ち上げは、竹馬の友をはじめ、多くの同級生の支えのおかげ」と感謝する。

